

## 未来を水と共に

私たちが人間は、水が無ければ生きていくことが出来ない。のどが渴いた時、料理をする時、衣類を洗たくする時、そしてお風呂に入る時。私たちにあって水は、無くてはならないものだ。

私の祖父母は福島県いわき市に住んでおり、東日本大震災で被災した。大地震の揺れによる家の倒壊や海岸沿いの地域の津波による被害により、地域全体のライフラインが機能停止した。なかでも祖父母にとって断水になったことが一番苦労だったそうだ。飲料水は、近くの小学校に給水車が来るたびに、小学校まで行き、そして大行列に並んで水をもらう日々が続いた。私は、その話を聞いた時に当たり前にある水が一瞬にして貴重なものになる現実に驚いた。

私にはもう一つ驚いたことがある。安心して

奈良女子大学附属中等教育学校 二年  
水戸 愛琳

て飲める水が身近に無い人々が、世界には六億六千三百万人おり、汚染された水を飲んだりや不衛生な環境が原因となつて亡くなる人が毎日八百人いることだ。私はこの数字を見て言葉を失った。私たちが何気なく飲んでい

る水であるが、汚染された水を飲むなどといった環境によつては命を落としてしまう事に恐怖を覚える。

私はこれら二つの事実から、当たり前のように普段飲んでいる水は、とても貴重であることを考えさせられた。

今、世界中をさわがしている新型コロナウイルスだが、後発開発途上国で手洗いが出来ない設備環境により感染を拡大させているというニュースを観て私は大きな衝撃を受けた。私たちにあって、感染を最大限に防ぐ手法として手洗いが重要であることが当たり前にな

っている。手洗いが増えれば普段より水をたくさん使うため何度も水汲み場まで行き来することになる。そんな中、感染した人が水汲み場に行くことにより水汲み場で集団感染となる危険があるという。必要最低限の生活をしている人々が私たちの環境から比べれば感染確率が高くなるとのニュースを見て胸がしめつけられる思いだ。

このような現実には、なかなかすぐには解決できないだろう。だからこそ、地道に少しずつ世界中の人々が安全な水と共存できるように水道を作るなど努力していかねばならない。私は、毎日当たり前のように水を使える環境である幸せ者である。だからこそ水の無駄使いに気を付け、ポンプの設置などの取組みをしている機関に募金をするなど、私に出来る取組みを少しずつ行い未来の生命に貢献できる人になりたい。